

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	中央区
学 校 名	開平小学校
学校長名	岩本 由紀

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・開平小学校では、第6学年 56名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語、算数ともに大阪府平均・全国平均を上回る結果となっている。平均正答率で、全国平均と比べ国語で7ポイント、算数で11ポイント上回っている。一方、理科では全国平均を下回る結果となり、平均正答率で、全国平均と比べ2ポイント下回っている。平均無回答率は、国語、算数とも全国平均よりも低く、最後までしっかり考え、回答しようとしていることが分かる。しかし、理科に関しては平均無回答率が全国平均よりも高い結果となっている。

児童質問紙については、自己有用感に関する項目はいずれも肯定的回答率が高い。各教科に関する項目についても肯定的回答が多く、自ら学び方を考え、友達との意見交流を通して、より考えを深め意欲的に学習に取り組む児童の姿が顕著にあらわれた結果となっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

全ての領域において大阪府平均、全国平均を大きく上回っている。読むことに関する正答率は、大阪府平均、全国平均より17ポイントも高く、目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見付けることができている。また、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめたり、図表などを用いて書き表し方を工夫したりと話すこと・聞くこと、書くことに関する力も高い結果が出ている。

大阪府平均、全国平均よりは高い結果となっているが、他の項目に比べると、目的や意図に応じて伝え合う内容を検討する力や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える力は、さらに高めていく必要がある。

〔算数〕

全ての領域において大阪府平均、全国平均を大きく上回っている。全領域で全国平均と比べて10ポイント以上高い結果となっているが、特に測定領域では全国平均より18ポイントも高い。その内の一つは記述式で、問題を解決するために必要な数量を見だし、必要な事柄を判断し、求め方を記述することができている。普段から児童が主体的に取り組める授業の工夫を行い、4年間本校が取り組んできた研究「児童が主体的に解決する算数科の授業」の成果であると考えられる。

唯一、異分母の分数の加法の計算が平均を下回っており、異分母の分数の計算力をつけるためには、分数の基本的な概念をしっかりと理解させ、反復練習を通して異分母の分数の計算を正確に捉えていく必要がある。

〔理科〕

「エネルギー」「地球」を柱とする領域では、大阪府平均、全国平均を上回る結果となった。一方、「粒子」「生命」を柱とする領域では、大阪府平均、全国平均を下回る結果となった。特に、顕微鏡を操作して適切な像にするための技能や解決するための方法が適切であったかを検討し表現する力に課題が見られる。具体的操作を体験から学び、自分の観察や考察を他者に説明しフィードバックをもらう機会を積極的に作ることで操作スキルだけでなく表現する力をつけていく必要がある。

質問調査より

「自分には、よいところがあると思いますか」の最も肯定的な回答の割合が大阪市や全国の約1.5倍あり、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」も肯定的な回答の割合が高いなど、自己有用感の高さが表れている。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の最も肯定的な割合が高く、肯定的回答のみであった。

「学校に行くのは楽しいと思いますか」の最も肯定的な回答の割合についても大阪府や全国の約1.5倍あり、児童が安心して学校生活を送れていることが示されている。

国語、算数、理科、が好きかを問う項目では、最も肯定的な回答が大阪府や全国の割合から9～33ポイント高く、それぞれの教科における内容の理解や活用に関する項目についても最も肯定的な回答の割合が高い。そして、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」の最も肯定的な回答の割合が大阪府や全国の約2倍あり、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の最も肯定的な回答の割合が大阪府や全国の約1.5倍あることから、児童の心理的安全性の高さが自分の気持ちや意見を安心して表現できることにつながり、これまで学力向上の研究で取り組んできている『自ら学び合い深め合う授業の工夫』を重ねてきた結果であると考えられる。

一方、ICT機器の活用項目で「自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができる」「友達と協力しながら学習を進めることができる」の肯定的回答の割合が他の項目に比べて低く、ICT機器の活用機会を増やし、スキルを高めていく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

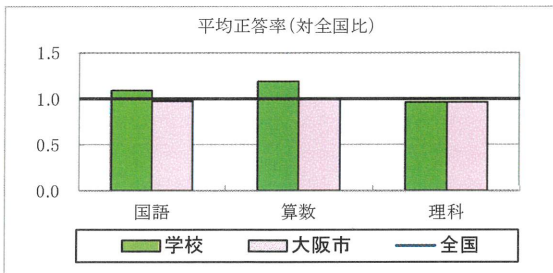
対話力を向上させるために、授業内で積極的にペアワークやグループワークを取り入れ、主体的・対話的で深い学びを重視した授業づくりに継続的に取り組み、友だちと学び合いながら、主体的に学びに向かう子どもの育成に努めていく。

ICT機器の活用スキルの向上のために、オンライン上で共同編集が可能なツールを活用し、グループでアイデアを出し合ったり、意見を整理したりする活動を増やしていく。またプレゼンテーションソフトを活用し自分の考えを視覚的にわかりやすくまとめることで、ICT機器をコミュニケーションや協働のための道具として積極的に取り入れて活用スキルを高めていく。協働的な学びの実現に向けて、端末を使用しグループで意見を共有したり、共同で資料作成したりすることで児童が協力して課題に取り組む力を育んでいきたい。

【 全体の概要 】

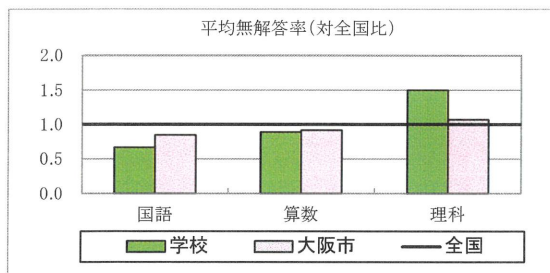
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	73	69	55
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

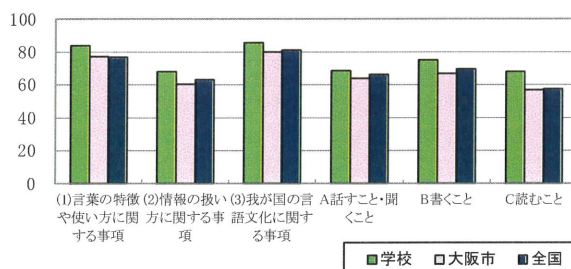
	国語	算数	理科
学校	2.2	3.2	4.2
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	83.9	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	67.9	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	85.7	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	68.5	64.0	66.3
B 書くこと	3	75.0	66.7	69.5
C 読むこと	4	67.9	56.9	57.5

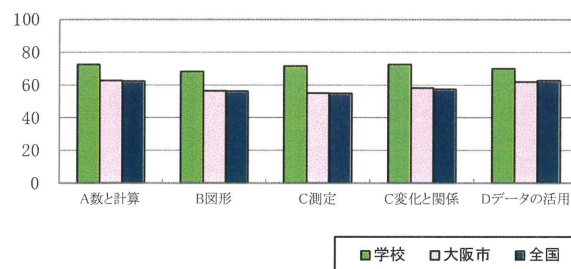
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



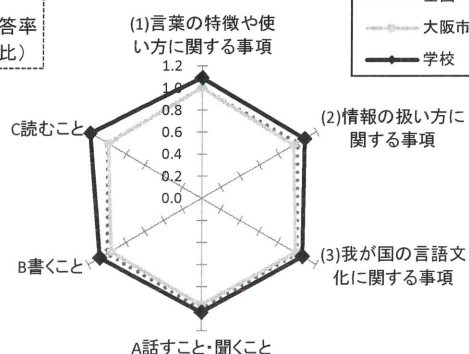
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	72.4	62.7	62.3
B 図形	4	68.1	56.4	56.2
C 測定	2	71.6	54.9	54.8
C 変化と関係	3	72.4	58.2	57.5
D データの活用	5	70.0	61.9	62.6

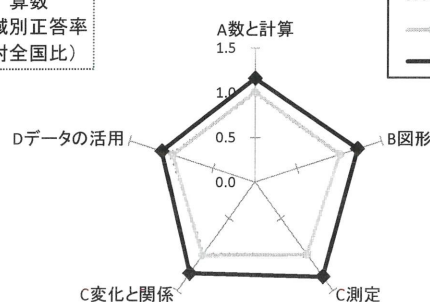
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 内容別正答率 (対全国比)

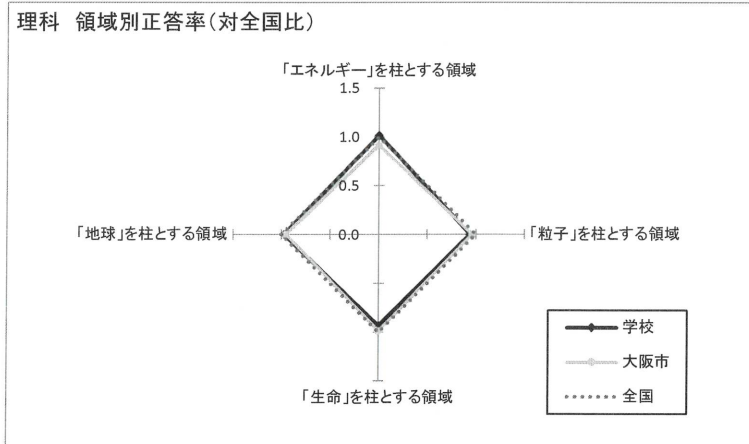
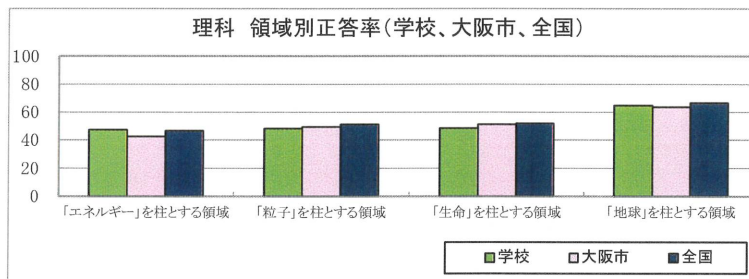


算数 領域別正答率 (対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	47.4	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	48.3	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	48.7	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	64.9	63.8	66.7



児童質問より

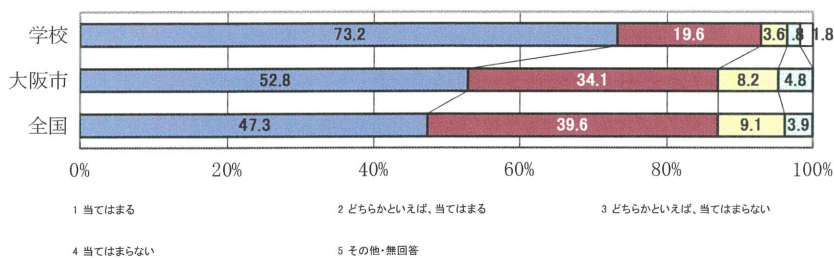
質問番号

質問事項

5

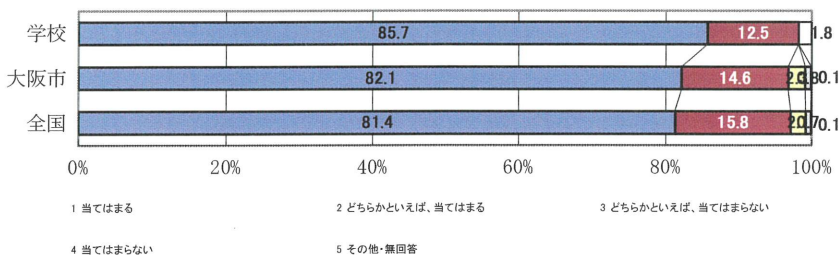
自分には、よいところがあると思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8



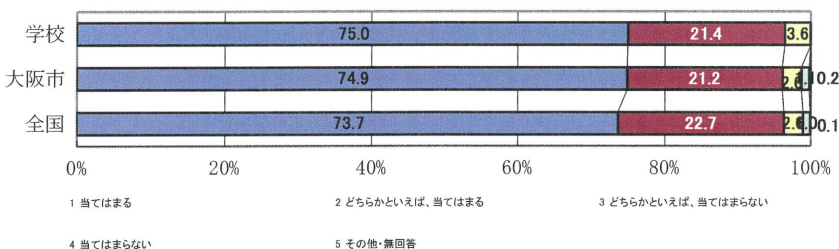
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



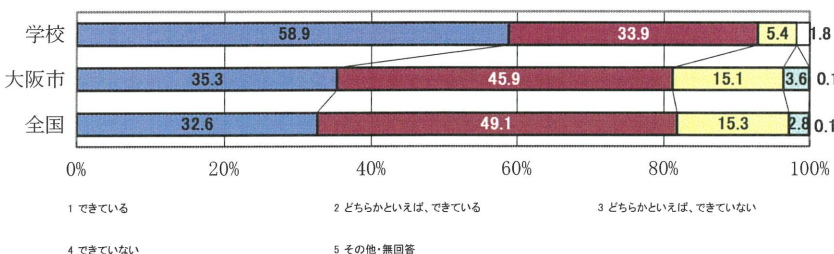
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



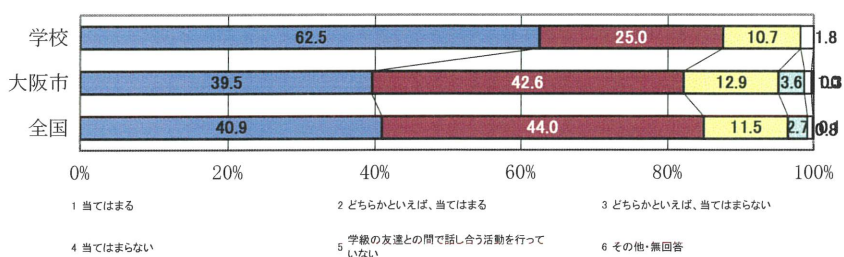
16

分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



学校質問より

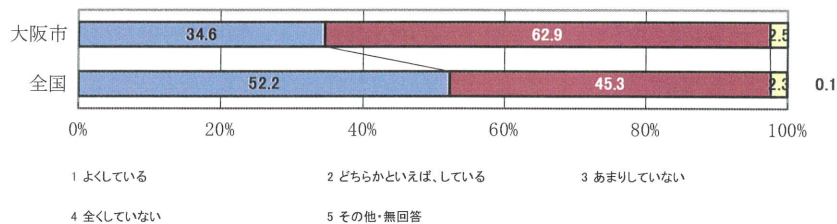
質問番号

質問事項

16

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

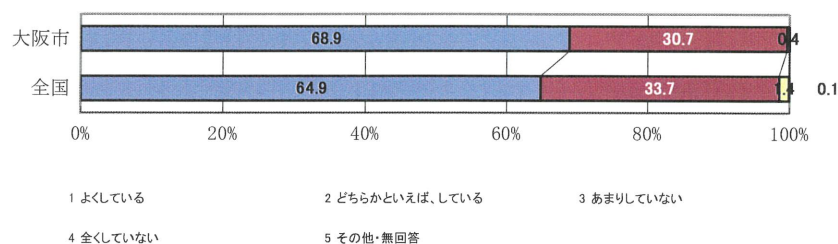
学校「よくしている」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

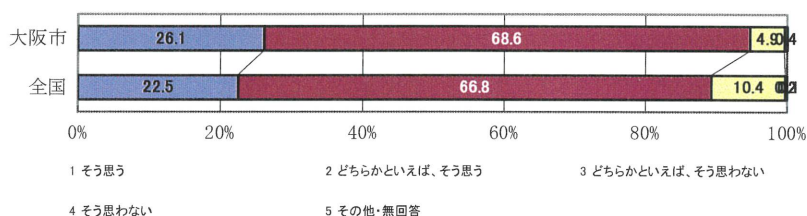
学校「よくしている」を選択



25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

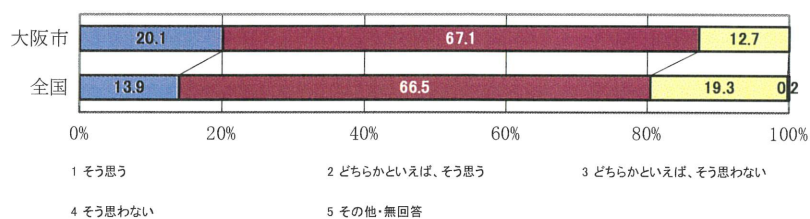
学校「そう思う」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

学校「そう思う」を選択



31

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

学校「よく行った」を選択

